

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：16301

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K15332

研究課題名（和文）中山間地域における雇用創出を目指した林業請負業の独立・起業モデルに関する研究

研究課題名（英文）Study on entrepreneur models of forestry aiming job creation in mountainous villages

研究代表者

川崎 章恵 (Kawasaki, Akie)

愛媛大学・農学研究科・准教授

研究者番号：30598412

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：比較的林業へ新規就業後数年での独立・起業者が多くみられる地域において、独立・起業から数年の機械化を進めている経営者へ聞き取り調査を実施した結果、初期の機械購入においては消費者向けの融資サービスの利用による資金確保が見られること、機械や資金調達方法の選定には、事業地への修理等での技術者派遣が可能な機械販売代理店等に既定される傾向が見られた。農業・漁業と異なり系統金融機関がない林業分野の小規模経営者への信用の担保や低金利融資等を支援する政策が求められる。また、アンケート調査により一人親方などの個人事業主一般として2000年代半ば以降機械化は進展していないことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

林業における労働政策は、1990年代以降通年雇用労働者の雇用条件の改善を中心に進められてきた一方で、多層からなる請負構造の中で一人親方などの個人事業主の存在も依然として大きい。林業という産業の維持の面、地方の雇用創出の面からも個人事業主として独立・起業する上での課題を明らかにしたことは、地方、とりわけ山間地の社会課題への認識を広め、政策につなげる第一歩としての意義がある。

研究成果の概要（英文）：As a result of the interview with small-scale contractors who became self-employed contractors a few years after starting forestry work and started mechanization early on, loan from consumer finance lender has been seen at the beginning of mechanization, machine selection and financing strategy tend to be defined as by the seller in the area. The policy support is needed for credit collateral and low-interest loan for small-scale business owners in forestry without cooperative financial institutions like Agriculture or Fishery. Additionally, according to the result of the questionnaire, general self-employed contractors does not mechanize still since the 2000s.

研究分野：林業経済学

キーワード：林業経済 林業経営 機械化 個人請負人

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

地方の人口減少対策等を目的とした地方への人材還流が政策的に取り組み、若者の地方移住の動きが高まっている。林業においても1990年代より自然の中での暮らしなどに価値を見出したライフスタイルに基づいた若年労働者の就業が見られるようになり、2003年～の「緑の雇用」事業などの新規就業者の就業・育成支援施策がその動きを後押ししている。

林業における労働政策は、1990年代以降、主に社会保険への加入促進などの通年雇用労働者の雇用条件の改善、2000年代には「緑の雇用」事業などの新規就業者の募集・育成、2010年代には新規就業者の長期的な定着を目指したキャリア形成へと展開し、キャリアモデルに合わせた研修カリキュラムの実施など拡充されている。新規就業者は2000年代初頭より年間3,000名程度で推移している一方、離職率が高いことも指摘されている。

大分県では、森林組合の多くが直接雇用労働者を増加させる意向はなく、この10年間で雇用労働者の規模はほとんど変化がなく、新規就業者が就業後に森林組合の労働力確保戦略の中で、請負事業体への独立が促されるケースも報告されている。独立・起業後の経営状況には地域あるいは独立前の就業先によって差がみられ、雇用労働者のいない個人事業主に留まるケースや経営悪化により林業から退出するケースも散見される。個人事業主(いわゆる一人親方)では自己搾取的な労働に陥りがちで、請負事業体としての経営基盤を確立が課題である。その一方で、地域によっては他業種から新規参入する請負事業体の増加や雇用労働者の高い独立・起業志向も確認されている。しかし、機械化には高額な資金投入が必要となり、個人事業主としての独立したばかりの林業従事者にとっては初期投資が大きく、独立・起業のボトルネックになっているとみられる。林業従事者を確保するためには独立・起業した個人事業主が労働者を雇用できる経営規模まで経営基盤をいかに築いていけるかが大きな課題である。

2. 研究の目的

本研究では、中山間地域での雇用創出を目指して、林業請負業において独立・起業後に複数の労働者を雇用する規模まで成長するまでの経営条件を地理的条件、経営支援、経営収支状況について分析し、独立・起業に成功している事例をモデル化し、可視化することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究期間において、独立・起業モデル(仮定)に基づき経営規模別に、調査対象を選出する。主な調査対象は大分県下の森林組合のうち、請負班を維持しつつ直接雇用労働力を強化するタイプ、従来の請負班体制を強化するタイプ、新たな請負班養成手法として新規就業者を育成するタイプに該当する計5つの森林組合とその営業地域内にて森林組合より独立・起業したあるいは営業活動を行っている請負事業体および個人事業主を対象に1)地理的な条件、2)経営支援の側面、3)経営収支の状況について対面調査およびアンケート調査を実施する計画であった。

しかし、申請予算の減額や様々な事情で研究方法を一部変更することになった。既存の統計や行政機関への情報公開請求に基づく資料収集などに加え、まず、上記のうち、「新たな請負班養成手法として新規就業者を育成するタイプ」に該当する森林組合および同森林組合営業範囲内の4事業体・その他個人事業主への対面調査を実施した。そして、大分県、福岡県、熊本県の森林組合のうち請負班を維持しつつ直接雇用労働力を強化するタイプ、従来の請負班体制を強化するタイプ、新たな請負班養成手法として新規就業者を育成するタイプに該当する計11の森林組合へ地域内の林業労働力の実態、直接雇用労働力の育成状況、個人請負人や請負先の事業体の状況等を聞き取り調査した。また、これらの森林組合に関連する雇用労働者のない個人事業主(いわゆる一人親方)へ労災保険第二種特別加入制度に基づく一人親方団体を通じてアンケート調査を実施した。

4. 研究成果

比較的林業へ新規就業後数年での独立・起業者が多くみられる地域において、独立・起業から数年の機械化を進めている経営者へ聞き取り調査を実施した結果、初期の機械購入においては消費者向けの融資サービスの利用による資金確保が見られること、機械や資金調達方法の選定には、事業地への修理等での技術者派遣が可能な機械販売代理店等に既定される傾向が見られた。農業・漁業と異なり系統金融機関がない林業分野の小規模経営者への信用の担保や低金利融資

等を支援する政策が求められる。また、アンケート調査により一人親方などの個人事業主一般として2000年代半ば以降機械化は進展していないことが明らかになった。

As a result of the interview with small-scale contractors who became self-employed contractors a few years after starting forestry work and started mechanization early on, loan from consumer finance lender has been seen at the beginning of mechanization, machine selection and financing strategy tend to be defined as by the seller in the area. The policy support is needed for credit collateral and low-interest loan for small-scale business owners in forestry without cooperative financial institutions like Agriculture or Fishery. Additionally, according to the result of the questionnaire, general self-employed contractors does not mechanize still since the 2000s.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川崎章恵	4. 巻 579
2. 論文標題 ICTを活用した現場管理事務作業の効率化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 森林組合	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 Akie Kawasaki, Katsuhisa Kohroki
2. 発表標題 Mechanization strategy of small-scale contractors in Japan
3. 学会等名 FORMEC 52th International Symposium on Forest Mechanisation Exceeding the Vision (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川崎章恵
2. 発表標題 労災保険関連統計にみる林業労働災害の発生傾向と災害防止対策の課題
3. 学会等名 日本森林学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川崎章恵
2. 発表標題 主伐移行期における林業労働力の存在形態：大分県下森林組合を事例に
3. 学会等名 林業経済学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 川崎章恵
2. 発表標題 林業における労災保険特別加入制度と一人親方団体を取り巻く状況
3. 学会等名 林業経済学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Editor Dr. Imre Czupy	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Tibor Alpar vice-rector	5. 総ページ数 651
3. 書名 EXCEEDING THE VISION: FOREST MECHANISATION OF THE FUTURE Proceedings of the 52nd International Symposium on Forestry Mechanization	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------